

野手が投手のもとに集まれる回数制限【FAQ】

2026年1月31日現在

No.	事 象	回 数	理 由	事例 No.
①	イニングの途中で捕手が交代し、投手（捕手）のもとへ捕手（投手）が行った。	1回	野手が投手のもとへ行ったので数える。	1
②	攻撃側のタイムの際に、内野手(捕手を含む)が投手のもとへ行った。			
③	イニングの最初に交代した捕手が、準備投球前（後）に投手のもとへ行った。			2
④	投手のもとへ既に1回行った内野手（捕手を含む）が、イニングの途中で交代した投手のもとへ準備投球前（後）に行った。	数えない	イニングの途中で投手が交代したので数えない。	3
⑤	投手Aが交代する前に、既に内野手（捕手を含む）はAのもとへ行っていた。その後、投手Aは左翼手の守備についた。再びAが投手に移ったときに内野手（捕手を含む）が投手Aのもとへ行った。			
⑥	イニングの途中で交代した投手のもとへ内野手（捕手を含む）が行ったが、タイムを宣告後、30秒を超えて打合せを行っていた。			
⑦	監督が投手のもとへ行った時に内野手（捕手を含む）も投手のもとへ行ったが、監督がベンチへ向かって、内野手（捕手を含む）は投手と打合せを行っていた。			4
⑧	投手のもとへ既に1回行った内野手（捕手を含む）が、各塁を結ぶ線と投手板との中間点を越えて投手のもとに行こうとした。	行けない	審判員は、選手に対して試合のスピードアップに協力するよう促す。	5
⑨	攻撃側のタイムの際に、投手のもとへ既に1回行った内野手（捕手を含む）が再び投手のもとに行こうとした。			

※「事例No.」欄の数字は、『野手が投手のもとに集まれる回数制限について（2025年1月11日付）』の事例No.を示す。